

高速道路が 防潮堤。

役割。



仙台東部道路が、市街地への津波の流入を抑えた。

仙台市を含む宮城県の中南部は平地のため、海岸から約4kmまで津波が達した。

しかし、盛り土構造(7~10m)の仙台東部道路によって、市街地への津波や瓦礫の流入が抑制された。仙台市の東部を北から南に走るこの仙台東部道路が、防潮堤の役割を果たしたわけだ。また、仙台若林JCTと名取ICの間では、津波から逃げる高台として約230人が避難している。

福島県相馬市の国道6号相馬バイパスでも、盛土区間が防潮堤の機能を果たし、津波の浸水を防いでいる。

